

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	文化人類学A		
英文授業科目名	Cultural Anthropology A		
開講年度	2004年度	開講年次	1, 2年次
開講学期	1, 3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-人文・社会科学科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子 (学内連絡教官 佐藤 賢一)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a)文化人類学は、人文社会科学の一つとして、人類文化の基礎を学ぶ学問である。人類の祖先であるサルの生息域の北限は日本の下北半島である。人類は、それを越えてはるか北の寒帯にも生活することができるし、反対に暑い熱帯にも住むことができる。地球上の多様なあらゆる自然環境に生きることができる。それは、他の動物が主に種としての形質を変えることで環境に適応していったのに対して、生産技術の獲得と発達、そしてそれに見合う社会・文化を築くことで環境に適応し、あるいは環境そのものを改変し、進化・発展してきたからである。</p> <p>そうした人間社会のシステムを、自然環境への適応としての技術・生産的な側面（生態人類学）と、人間社会の本源的なテーマ『交換』を中心とした経済的な側面（経済人類学および構造人類学）から見ていく。</p> <p>(b)達成目標としては、第一に、人類文化の理解のために、さまざまな民族の社会や文化を知ることによって、その基礎である『食べ物を得ること』（生業様式）について洞察を深めること。第二に、人間の道徳律の根本としての『交換』を考えながら、社会が統合されていく仕組みを理解すること。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>なし</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>なし</p>
--

【教科書等】

参考書：綾部・田中「文化人類学と人間」（三五館）
山下・船曳「文化人類学のキーワード」（有斐閣双書）
小田亮「構造人類学のフィールド」（世界思想社）

【授業内容とその進め方】

授業の内容は、以下の13回の予定である。

- 第1回 文化人類学とフィールドワーク
- 第2回 人類の誕生-サルからヒトへ
- 第3回 人間と自然-生態人類学の視点
- 第4?5回 採集狩猟民の生活-ブッシュマン
- 第6?7回 牧畜民の生活-草原のモンゴルと砂漠のベドウィン
- 第8?9回 農耕民の生活-農耕の起源と世界の農耕文化
- 第10回 都市民の生活-アフリカの都市とスラム
- 第11回 交換とコミュニケーション-構造人類学とは
- 第12回 社会のまとめ役-調停者と統率者
- 第13回 私たちの生きている社会-近代国民国家

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

期末試験（論述式）および出席・小レポートの結果を、次のように総合評価する。

成績評価	期末試験	80%
	出席・小レポート	20%

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

1. 出席数、提出物の半分が出ていること。
2. 期末試験の設問において授業の内容が理解できていること。

【オフィスアワー：授業相談】

主として、授業の後の時間に、相談に応じる。またそれ以外では、適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

教科書はないが、難しい内容ではないので、授業をよく聴いて理解すること

電気通信大学 平成16年度シラバス

【その他】